

動のうねりのなかで

会長 鈴木 龍成

「目に青葉 山ほととぎす 初かつお」(素堂)

の句さながらに、四囲に緑あふれる季節となりました。「年間三大行事」のトップを切って四月廿七日、「平成廿年度昇伝審査会」が無事終了いたしました。

審査をお願いした宗家横山精真先生、総本部婦人部長前澤龍淳先生の熱心な審査、ご指導のもと一六名の受審者の真剣な吟詠が披露されました。両先生の審査講評の一言ひとことが、これからの私どもの吟精進に生かされることを期待したいと存じます。審査会に先立っての、宗家先生の吟詠ご指導は熱意溢れる内容であり、これまた私どもにとって貴重な勉強の機会であったと思います。

改めて、両先生に深甚の感謝を申し上げるとともに、会運営に当たられた関係者の皆様にお礼を申し上げます。私は一月の「ちよだ」第三〇号で、今年が「動」の年でありたいと申し述べました。会員一人ひとりが、教場活動はもとより、会の諸活動に積極的に参加していただきたいという願いを込めての一言でした。現在、当会の教場は十か所(四月に鎌ヶ谷教場が誕生しました)そして分室、分教場、クラブとしての拠点が八か所を数えます。この拠点自体の活発な活動はもとよりですが、教場を超えての相互の交流による動きが「吟詠クラブ」や「諸研修」として「動」のうねりの原点となつていくことに、千代田のエネルギーを感じます。このエネルギーの成果が五月一日現在の会員数二一〇名突破に繋がっていると思います。これから「動」あるのみです。

「動」についての話題として、当会会員のT、M氏が、一年半くらい前から特別養護老人ホームで「詩吟教室」を開いているとの明るいお話をうかがいました。漢詩、短歌、俳句、新体詩などを聴いていただき、時には皆さんと一緒に吟じたりしているとのこと。はじめは戸惑いもあったようですが、今では先方から「待たれる」までになっている由。嬉しいお話です。

一方、鎌ヶ谷教場では、二年前から、初春の一日、老人ホームでの「吟詠を楽しむひととき」を企画し、活発なコミュニケーション活動を展開しています。これも吟友ここにあり、というところ

です。話は変わりますが、平成廿年総本部新役員として審査管理部副部長に酒井帆山(新宿)研修学術部副部長に前田達山(ハザマ)事業部部長に野沢柳山(丸二)の三氏が任命され、総数で指導本部員を含めて十三名の方々が活躍されています。皆様ご苦勞様です。時まさに緑あふれる候、一杯の精気を胸に吸って、今日も健吟に励みましよう。



グロースグロックナー
オーストリア(3,798m)

星野久山(清水)

岳精流日本吟院

ちよだ

第 3 1 号

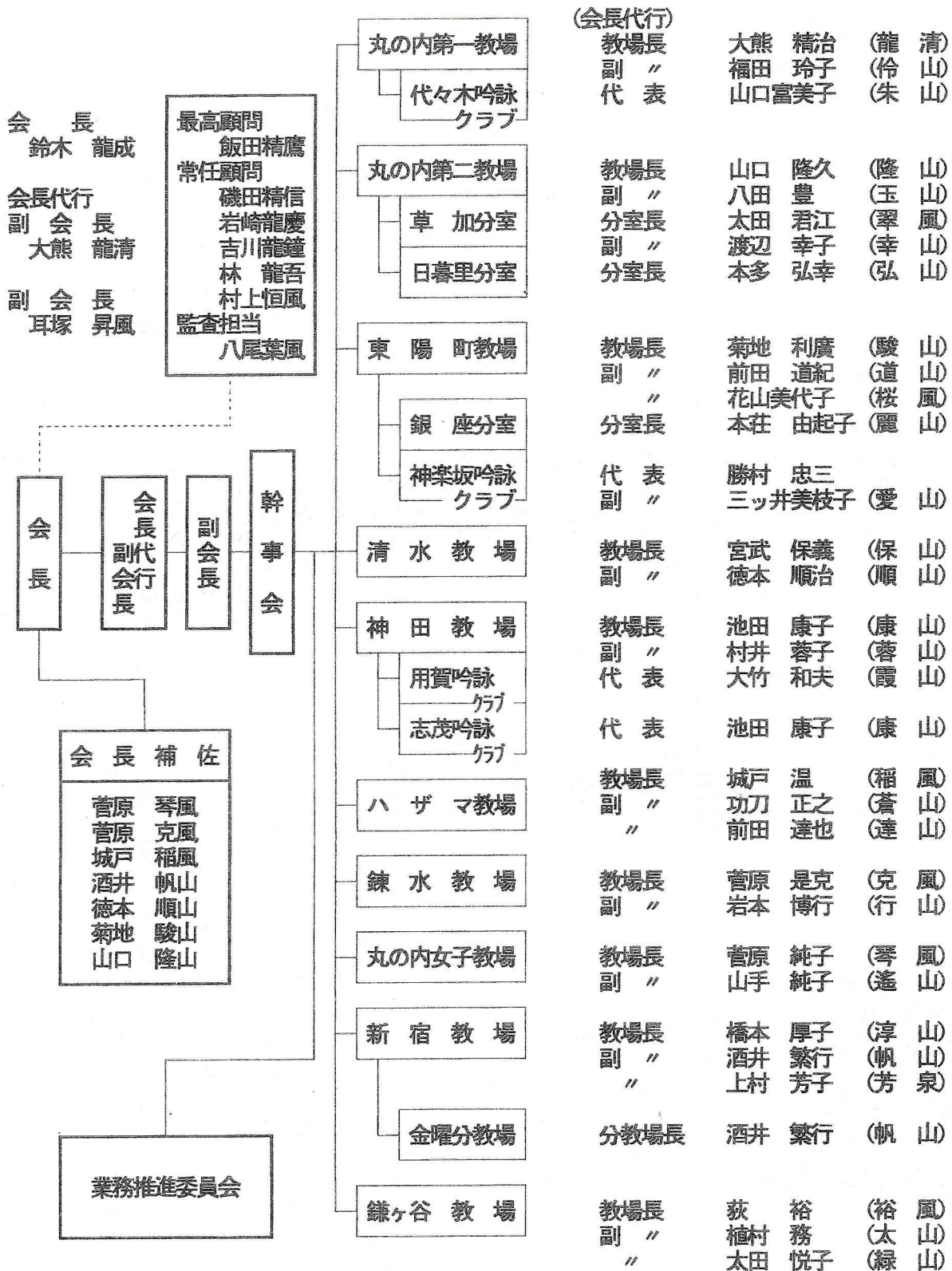
平成 2 0 年 5 月

千代田岳精会弘報

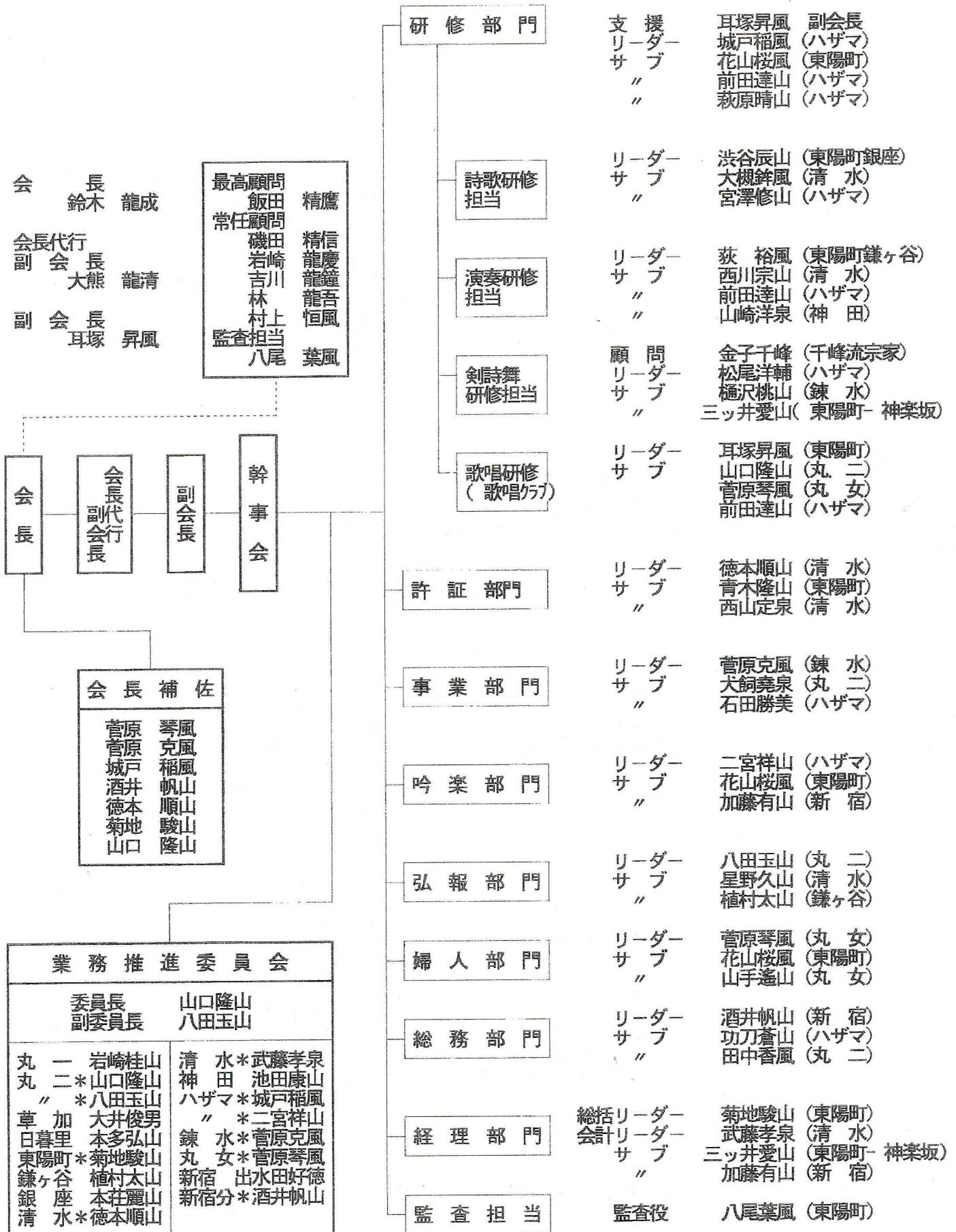
平成二十年度岳精流指標

ありがとう

平成 20 年 度
千代田岳精会教場組織図



平成20年度 千代田岳精会 部門組織図



*印 部門リーダー

薫風香る(鉢水交会で昇伝審査

日頃の研鑽の成果を存分に披露

宗家、前澤婦人部長を審査員として
お迎えした今年の昇伝審査は、一一五
名とこれまでの最多で会場も原宿駅に
近い東郷神社(鉢水交会で開催された。
竹下通りの喧噪が気にならない会場
で午前の宗家特別研修で杜甫作「絶句」
の指導を受け、午後には教場毎に心地
よい緊張のなかで審査が行なわれた。
終了後の講評で、前澤先生は「全体
として、流統の吟詠をしっかりと身に
付けて吟じておられていました」との
お言葉がありました。

中伝昇格者 丸の内第二 丸山 貞山
全 高松 泰山
東陽町 三ツ井 愛山
全 金子 澄山
草加 名取 佳山
神田 中村 重山
全 内山 壮山
全 粕川 紘山
全 萩原 晴山
全 ハザマ
全 鎌水 勢山
丸の内女子 板橋 禮山
新宿 加藤 有山
丸の内第二 犬飼 堯山
全 前原 秀山
清水 西山 定山
全 山田 晴山
全 大木 榮山
全 松田 好山

ハザマ 二井内 壽泉
全 山本 薫泉
新宿 平山 勢泉
全 吉田 曉泉
全 奈良崎 應泉
全 黒瀬 一泉

詩吟に想う

ハザマ 山本 薫泉

平成十六年八月、近隣に住む会社の
先輩加藤さんからハザマOBの詩吟同
好会の入会を誘われたのがつい昨日の
事だったような気がしますが四年の歳
月が過ぎました。詩吟の知識は全く有
りませんでした。詩吟の知識は全く有
先輩の指導のおかげで、詩吟とは漢詩
和歌、俳句、新体詩などに込められた
作者の喜びや悲しみ、感動した心を吟
者が理解して声で表現する事である意
味を知りました。
詩吟の起りは紀元前二千年前と言
われていますが、八世紀頃に漢詩文学
が隆盛となり、その後、和漢朗詠集
が出来て平安時代には笛に合せて朗詠
が始まったとの事。歌唱芸術として詩
歌の朗吟は盛衰変遷を経て音楽として
とが出来ました。
我が岳精流日本吟院も全国に多くの
会員を持ち、毎年の十一月に日本武道

館で開催される全国大会は誠に盛大な
大会であります。その場に吟歴の浅い
小生が二回千代田岳精会の一員として
末席を汚す役目を得られた事は、誠に
有難く幸せに思っております。

詩吟の心をつかみ吟ずる事の難しさ
を日々感じておりますが、想う事はも
っと早く若年の折に詩吟に接する機会
があったらと悔やんでおりますが、
所詮無理な事、毎週の練習日に頑張っ
ておられる諸先輩や教場長、鈴木会長
に頭が下がります。その努力に感謝し
つつ頑張っていきます。

この度は、最初の号初伝を頂く事が
出来ました事、お礼申し上げます。

雅号をいただきました

新宿 吉田 曉泉

新宿教場長の橋本先生が分室長とし
てスタートした平成十六年十一月十六
日に入会し、はや三年半が経ちました。
初めは声が出ず先輩の美声に感動しま
した。片道二時間かけての練習は、時
には腰が引けてしまうこともありまし
たが、何時もどなたかに励まされてき
ました。そんな私も教場の名簿は上か
ら六番目になり、廿四名の会員で教室
が狭く感じますが、明るく、楽しく、
熱心に、の輪の中におかかげで、雅
号「泉」を頂けるまでになりました。
次の目標は「山」ですが、馬齢、花粉
症とも戦わなければならぬので、こ
の先も心配ですが、声を出すこと、詩
を暗譜することが「ボケ」防止になる
と信じていますので、無理をせずに続

けたいと思っています。また入会以来の地道な努力がやっと実り、昨年十一月に吟友清水久明さんを得ました。それが、これからの大きな励みとなり、ちよっぴり先輩風を吹かせ、初心を忘れずに、橋本先生、酒井先生のご指導を受けて参りたいと存じます。

初伝審査への挑戦

ハザマ 二井内 壽泉

平成十六年三月に教場を見学し、健康に良いと言うことで、八月に入会しました。二年後の初段審査の前頃から突然左右の耳の聴力が落ち、休会する事になりました。検査の結果聞えの悪かった左耳に補聴器を着ければ日常生活が送れると言うことになり、十八年七月から補聴器を使いだし、半年かけて馴染む努力をしました。この間、鈴木会長、城戸教場長からの手紙に勇気づけられて、再度やってみようと言う気持ちになり、十九年三月に復会しました。補聴器を着ける事により教室での先生の声を聞き分けられる様になると共に、自分の声も確認出来ました。教場では先輩から、その都度熱い指導を貰い、自然に身体の中に躍動感が漲り、人が変わったかのように力強い声が腹から出て来るようになりました。そしてこの度は初伝審査に挑戦させて貰える機会に恵まれ、感謝して居ります。また、その上壽泉と言う雅号を戴き、本当に有難うございました。今後は、自分の人生の糧として吟と共に歩んで行きたいと思ひます。

雅号に恥じない吟詠を

清水 大木 榮泉

四月廿七日は、一日中吟に浸った忘れ難い日でした。会場は東郷神社の中の「クラブ水交」で、明治通りから少し入っただけで目の前に綺麗な池が広がり、静かな森に囲まれて素晴らしい環境に包まれた所でした。午前は宗家の特別研修があり、杜甫の「絶句」について細かいご指導を受けることが出来ました。言葉の意味を良く理解して、一言一言を表現してゆくことの大切さを優しく教えて下さり、大変勉強になりました。午後は本番の審査で、審査員は前澤先生でした。思い返すと三年前に初めて昇伝審査を受けてから毎年続け、今年は初伝の審査となります。緊張しながら前澤先生の前に進み指定された吟題を吟じました。が、先生の講評は顔を上げて遠くへ届くよう発声するようにとのことでした。宗家が研修で言われたように、言葉の中味が全て頭の中に入っていないかったために、結果として自信の無い発声となっていました。反省されました。今回初伝となり初めて雅号を戴くことになりました。これまでは初心者ゆえに氏名そのままで詠じておりましたが、これからは一人前に雅号をつけて吟ずることになります。責任の重さを感ずると同時に、その名に恥じない吟詠を自分のものとして精進してゆく所存であります。

初夏に思う

丸の内第二 犬飼 堯泉

卯月から皐月、春爛漫、年中で詩心を最も沸かせる季節なのでしようね。その中、小生が詩吟を始めたのが、まさに四年前のこの季節でした。大先輩の高橋辰山氏の紹介で入会して、初めて吟じた時の2本の声が出しきれず、これは大変な運動だと思ったものです。それから満四年が経過し、今回、初伝の審査に臨んだのですが、このところ二年位小生は「棒吟」を何とか脱出したい、詩情とは？それを表わすには？生意気にもこのことばかりを常に考えておりました。そこへ今年の審査、当日宗家の直審査という希有の場面、緊張プラス前記の事が頭の中を巡っており、尚且つアクセントも気になりだし、それらを気にしだすと、途中吟じた句ごとに気になりだして次の句の詩文が浮かんでこないという事態に陥り散々でした。従って、これを機に小生のこれからの課題は、その詩が表わそうとしている描写の理解、言わんとしている強調点がどこにあるのかを即理解できる能力、それに合った節調、単語及び述語毎のアクセント等々を学習し、「棒吟」脱出の為、師となる方々の全面的なご支援を図々しくも仰ぎ、尚且つ、戻りつつある体調に合わせ、本数を再び3本（現在2本）で吟じられるようにしたいと思っております。これが今年の昇伝審査を受けての後の感想でしたが、何故か毎年思っていることと大して変わらないような気がします。

ています。：ハイ。
「審査終え 泉雅嬉し 阜月空」
マタマタ超駄作。

鶯の初鳴きから

清水 松田 好泉

今回、前澤龍淳先生から初伝審査を受けることが出来ました。会場の「クラブ水交」は、先生の後方に春酩の淡紅色のもみじ、その先は清らかな水を湛えた池で、岩上では数匹の亀が甲羅を干している長閑な姿がありました。審査では緊張のあまり、一部アクセントを忘れる部分もありましたが、何とか無事終わることが出来ました。思えば、二〇〇四年十二月、西川宗山先輩から入会のお誘いを受け、年末に教場の見学に行きましたが、そこで諸先輩の吟詠に対する熱い努力の情景を拝見し、無趣味な私ながら是非やってみたいと思い、翌年一月入会しました。磯田先生のご指導で習い始めましたが、全くの初見参で一週、二週とも立上がつて皆の前で声を出すことが出来ないう様でした。今回の審査日の丁度三年三か月前の一月廿七日、三週目の横井小楠作「偶作」の仕上げの日でしたが、恐る恐る小さな声を出して初吟を先生に聞いて戴きました。吟にはなっていないかと思っておりますが、先生から「鶯の初鳴きですね。これからどんどん楽しくなりますよ」と言われて頂いたのが強く印象に残っています。初伝を受けられるようになると思ってもおよばなかったと懐かしく思い出さ

れます。
今後、諸先生。先輩方のご指導を得て、楽しみながら吟を続けて行きたいと思っています。

喧嘩吟から飛躍

新宿 平山 勢泉

花は水表に映じて 神池清し
微風 新緑 人顔に軽ろし
今年の初伝審査は晴天の下、東郷記念館の池に面した風光明媚な会場で開催され、誠に気持ち良く詠うことが出来る舞台であった。

新宿教場では本年当初からコンクールに備えて「独柳」を学んだ。「まずい、これは女性用の吟だ」と気付いたが時既に遅しであった。しかし、酒井帆山先生に「これをこなせばお前の吟は大きく変わるぞ」と言われ「煙」の発声だけで二〇分以上、同輩があきれ程熱心に指導された。また他教場のK先輩のソフトな範吟を聞いて、喧嘩吟一辺倒だった自分が少し変化出来た気がする。橋本淳山、酒井帆山の両先生から「パイプに吹込む発声をしろ、声に芯をつくれ、声を散らさず束ねれば3本、4本の発声も夢ではない」と励まされ、その氣になった。
雅号は「平山勢泉」とした。名前の順一から順泉が順当なのだろうが、とつくに老人の自分が可愛らしく「順ちゃん」と呼ばれるのが嬉しかった。現代からヒラサン・ヒラチャンで通して来た。
現代人は呼吸が浅いと言う。吟の鍛

錬によって肺の隅々まで空気を吸い込むことは、健康・長寿の秘訣に違いない。初吟会から初伝審査まで今回得したものを、吐いて、吐いて、とことん吐き切ってしまったら、新たな飛躍への酸素が胸一杯飛び込んで来る。きつとそうだろう。

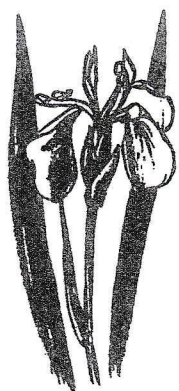
一步一步の前進

清水 西山 定泉

生涯趣味の一つとして軽く始めた吟ですが、気が付けば初伝審査までようやく来たなど感慨無量です。日を追う毎に吟の奥深さに引き込まれ、今やつとその階段の第一歩と痛感しております。

これからは急斜面で二百数十段頂上の神殿にはあの美しく立派な枝垂桜のある身延山の石段を登るが如く、一步一步また一歩進みます。この道に近道は無いと言いつても聞かせ、時間をかけ廻り道をしてでも登れるところまでと思っております。

これからもお世話になります。ご指導を賜っております先生・先輩や教場の方々へ厚いお礼と今後の一層のご鞭撻を申し上げる次第であります。



丸の内第二 前原 秀泉

これも、岩崎前教場長のご指導はじめ先輩諸氏の励ましのお陰と心より感謝しております。

先輩方の吟に長く親しんできた人は、それぞれ個性はあるものの、何とも言えない燻し銀の味があると思います。それに一歩でも近づける様、まだまだ駆出しですが、徐々に克服し「継続は力なり」をモットーに、年輪を重ねて行ければと思っています。

今後とも、ご指導の程宜しくお願い致します。

新宿 奈良崎 應泉

私が吟の道に初めて接したのは、丁度四十数年の会社務めを終え、さてこれからどのような生活を送ればよいのか思案していた矢先でした。会社時代にお世話になった酒井帆山さんからの

それから三年六か月を経た今回の昇

伝審査は、私にとり特別の意味を持つものでした。これ迄の昇伝審査を振り返ると、入会して四か月目でしたが、空海の「後夜仏法僧鳥を聞く」、二年目は、細川頼之の「海南行」そして三年目は、釈絶海の「雨後登樓」と、その年の指定吟から自分で選んで審査を受けてきました。しかし、今回は初めての雅号を戴ける初伝審査と言うプレッシャーに加え、指定吟二題からどの吟が自分に当たるのかと言う不安がありました。幸い午前十時から横山精真宗家の研修受講の機会を得ることができ、自分の心を静め、午後の会場へ向かうことができました。

与えられた吟は、常建の「宇文六を送る」でしたが、自分なりに精一杯吟じ終え、前澤龍淳先生からの講評を伺い、今後の学ぶ方向として心に刻むことが出来ました。

僅か四年足らずの吟道ですが、折々の温習会や、コンクール等でご指導を受けた先生方をはじめ諸先輩、そして教場の仲間と吟友の輪を抜げていく一員として精進して参りたいと思います。

平成十九年度準師範試験に臨んで

鍊水池田幹山

勤務場所が遠くなった為、この二年間は教場出席日数がガタツと減りました。こんな状況で受験資格があるのか、心苦しい次第でしたが、教場の皆様に

川崎の本部には数回練習で出席致しましたが今回の場所は初めて。顔を見慣れた諸先輩方よりも初めて見る方々の方が多く、遠方から来られたのだなと感じると共に、広い会場に座ると自然と緊張感を覚えました。終わって昼食時には和らぎましたが、面接で入室時にまた緊張。先生の静かな顔とやさしい話しぶりにやっと落着きました。「このまま続けて下さい」と言われたとき安心しました。

練習回数が減って、正直詩吟への自信が低下しているのですが、風呂やお店で一杯やっている時、ふっと詩吟が出るようになりました。準師範にはまだまだ程遠いと感じておりますが、今後とも機会を見つけて吟道に精進していこうと思っています。

全国吟詠コンクール大会

三月十五日にサンワークかながわで全国より百二十四名が参加して開催された千代田から出場の八名は、ハイレベルの大接戦のなか、次の方々が入賞の榮譽を獲得された。

二位

城戸

稲風
ハザマ

一般の部

十位

加藤

有泉新宿

吟劍詩舞道連盟

吟詠コンクール

今年も品川・港区で優勝三名、上位入賞一三名（五月の都大会出場）入賞八名と実力が存分に発揮された。都大会は本号発行時頃となっており更なる精進と成果が期待される。

品川区

優勝 菅原 琴風（丸女）
八位 小林 公泉（神田）
十位 加藤 有泉（新宿）
入賞 粕川 紘泉（神田）
三位 山手 遙山（丸女）

一般三部

優勝 本莊明日香（銀座）
二位 益子 絵梨（銀座）
二位 伊藤 浩山（鎌水）
入賞 武藤 孝泉（清水）
入賞 中内 博司（ハザマ）
入賞 青木 恭山（草加）
入賞 岩本 行山（鎌水）
優勝 城戸 稲風（ハザマ）
二位 功刀 蒼山（ハザマ）
四位 渋谷 辰山（東陽町）
五位 中川 睦山（ハザマ）
六位 耳塚 昇風（東陽町）
十二位 徳本 順山（清水）
入賞 宮武 保山（清水）
入賞 永岡 詠山（東陽町）
入賞 青木 隆山（東陽町）

一般二部

優勝 本莊明日香（銀座）
二位 益子 絵梨（銀座）
二位 伊藤 浩山（鎌水）
入賞 武藤 孝泉（清水）
入賞 中内 博司（ハザマ）
入賞 青木 恭山（草加）
入賞 岩本 行山（鎌水）
優勝 城戸 稲風（ハザマ）
二位 功刀 蒼山（ハザマ）
四位 渋谷 辰山（東陽町）
五位 中川 睦山（ハザマ）
六位 耳塚 昇風（東陽町）
十二位 徳本 順山（清水）
入賞 宮武 保山（清水）
入賞 永岡 詠山（東陽町）
入賞 青木 隆山（東陽町）

一般三部

優勝 本莊明日香（銀座）
二位 益子 絵梨（銀座）
二位 伊藤 浩山（鎌水）
入賞 武藤 孝泉（清水）
入賞 中内 博司（ハザマ）
入賞 青木 恭山（草加）
入賞 岩本 行山（鎌水）
優勝 城戸 稲風（ハザマ）
二位 功刀 蒼山（ハザマ）
四位 渋谷 辰山（東陽町）
五位 中川 睦山（ハザマ）
六位 耳塚 昇風（東陽町）
十二位 徳本 順山（清水）
入賞 宮武 保山（清水）
入賞 永岡 詠山（東陽町）
入賞 青木 隆山（東陽町）



独吟コンクールに出場して

錬水 岩本 行山

コンクールというものが有るのを教えられたのは五年前でした。初回は雰囲気も判らず、直前に吟題を代えるよう指導された経緯もあって、吟の良さも判らずに素通り。もう懲り懲りと思っていました。二年前には今度は女性陣から誘われ、課題吟の中に好きな吟も有って出場しましたが、好きな吟イコール聞かせる吟とは違う事を思い知らされ、また選外。その後は武道館の合吟出場が続いた事などもあり遠退いていました。

今年合吟の出場もなく、昨年当教場の後輩伊藤君の都大会一般一部に応援に行った事もあって、言わば初めて自分の意志で出場することにしました。岩崎先生の上手く聞かせる為の丁寧なご指導を受けることも出来、家でも大きな声を出して練習をしました。ところが、二月上旬に以前からの予定の海外旅行に出かけ、帰りの飛行機で眼下の景色をまじまじ覗いていて、客室乗務員から「こちらの窓からもうどうぞ」と声を掛けられ、返事をしようとしたら全く声が出ない！。十八時間もの長いフライトで機内空気が乾燥し喉をやられてしまったようです。

コンクール当日、声を出してみたがやはり二本は出ず、急遽一本に代えて貰いました。お陰で何とか声漏れもせず吟じ終えました。上位の方々の余裕の音量を聴いて、技巧で凌いでいる自分の吟の限界を思い知らされたコンク

ールでした。

独吟コンクール初入賞

神田 粕川 紘泉

この度、吟劍詩舞道独吟コンクールにて、初入賞出来、身に余る光栄と恐縮しております。思えば六年前神田教場に入門した時は、吟について全く何も分からなかった私を林先生は誉めたり、また厳しく、丁寧にご指導下さり、また先輩方々の真面目に熱心に練習されていく姿に接し、私も知らず知らずのうちに詩吟に興味を湧いて参りました。詩情、調和、迫力、音程等ご指導戴く度に自分の未熟さを痛感、一生懸命練習しなければと思うようになり、今迄は何をやっても長続きしない性格でしたが、先生はじめ教場の皆様のご指導により何とか続けられてきたお陰と存じます。

一、二回目のコンクールでは様子も判らず、緊張して力んでしまい、足の震えが止まらず、どう吟じたか記憶がありません。今回は参加することに意義があると気持ちを楽しんで出場したのが入賞に繋がったのかと思います。吟に接すれば接する程奥が深く、これから情熱を傾け熱心に努力を積み重ねていきたいと思う昨今です。

吟詠コンクール初出場で入賞

ハザマ 中内 博司

ハザマ教場に入門して二年三か月、港区吟詠コンクールに初めて出場しま

した。結果は思いもよらない入賞でした。これはひとえに、教場での飯田最高顧問、鈴木会長、諸先輩のご指導の賜物と心から感謝する次第です。

思い返しますと出場申込みより大会当日までの間は不安と緊張の連続でした。吟題の「早に白帝城を発す」について教場と自宅で、練習はしてきたものの大会が近づくにつれ、出だしの音（CD伴奏に不馴れのため）、絶句、誤読、時間内の吟詠等についての不安が徐々に増してきました。

大会当日は、これらの不安を解消する策としてコンダクター持参による事前練習を試み、特に出だしの音、時間の使い方の再確認をすることにしました。出番が最終に近いこともあり昼食時会場の一画を拝借し、前田副教場長の好意による伴奏で事前練習をしました。この練習が功を奏したのか不安材料が大分無くなると同時に落ち着きも取り戻せました。そして愈々出番、緊張する中、時間内に絶句することもなく無事吟じることが出来ました。自分ではとても満足のいく吟でした。このコンクールでの経験をいかし、今後更に吟の練習に励んでゆく所存です。



宮武清水教場長元日のNHKに

千代田には、現役時代専門分野で活躍された方も多いが、そのお一人宮武保山清水教場長が、NHKの「エジプ

ト文明・ピラミッド」の番組に登場されました。

元日のテレビに出演して

清水教場長 宮武 保山

正月二日朝のテレビ吟詠に岳精流女子合吟が放映されることは事前に知らされておりましたが、元日に私が出演していることは知りませんでした。実は昨年十月、NHKから「世界中継・エジプト」なる正月番組のことで、清水建設時代に関与しておりましたピラミッド型超高層都市構想のの背景についてインタビューを受けておりました。その後何の連絡もなく元日夜のNHK「生中継エジプトナイル」という十分程度の番組にも登場しなかったもので、番組編成の都合でカットされたものと思っておりました。

ところが、その日のハイビジョンテレビに私が出ていたと近所のかたから聞かされ、五日夜の衛生第2テレビにエジプト文明に関する五時間番組が八時からあることを知って観ておりまして、ところ、十一時少し前にピラミッドとスフィンクスの前に立つ十五年前の私の写真と、我が家でのインタビューの映像が映り「四千年に亘って人類が受け継いできたピラミッドという、この極めて安定した構築物を将来に引き継いで行きたい」という超高層都市構想のコメントが収録されておりました。八日の幹事会の折、このテレビをご覧になられた方がおられることを知り嬉しく思いました。

「教場だより」

芝東照宮大祭奉納吟

清水 星野 久山

去る四月十七日（木）年一回の芝東照宮大祭が催行されたが、清水教場は請われて社殿で奉納吟を行なった。芝東照宮は徳川家康公を祭神とし、御神体は還暦を迎えた家康公が自ら命じて彫刻された等身大の寿像で東京都の重要文化財に指定されている。境内には家光公お手植えと言われる樹齢三百余年の大公孫樹があり、天然記念物になっている。

例年大祭の時期には、境内に多く植えられている八重桜が見頃を迎え、桜花爛漫の下特別野点の茶の接待や伊勢音頭踊りなどが奉納される。

今年はこちらに詩吟が加わり、午後一時半から鈴木会長も加わった清水教場有志による「花三題」とした合吟が奉納された。声馴らしを兼ねた「岳精会詩」に続き短歌「くれないの」正岡子規「母を奉じて芳野に遊ぶ」頼山陽「花を惜しむ」福沢諭吉のプログラムで、聴衆の評判も良かった。



のびのびわくわくさわやかちよだ

《目標5 拠点新設で5・GO!》

今年の、千代田の活動指標として、一月の幹事会で耳塚副会長から発表されました。昨年から続く千代田の前進を先輩、新会員一致して目標を明確にして取り組もうと言うことで、成果も着実に上がっています。

一、鎌ヶ谷分教場新教場へ昇格
開設以来、地元へ根付いた地道な活動が実を結び、四月一日付けで千代田十番目の教場へ昇格となりました。今後のご発展を期待します。

二、志茂吟詠クラブ
今年の拠点第一号として二月一日付で正式発足。(代表池田康山神田教場長)教室は、南北線志茂駅から5分の志茂東ふれあい館。第二・四火曜日九時三十分から、正会員も含め四人のクラブ会員が池田教場長の指導で楽しく学んでおり、千代田の空白区北区に拠点が出来たことは高く評価されます。

三、代々木吟詠クラブ
昨年末から渋谷区総合ケアコミュニティせせらぎを教室として、会員の募集を続けており、五月一日付けで正式に拠点としてスタート。会員四名、クラブ会員八名となり、第三、四火曜日の十四時から開講している。場所は京王新線幡ヶ谷駅から徒歩7分。
(代表丸の内第一山口朱山さん)
四月に発足の各教場選抜の支援チームへの協力要請は、業務推進委員長へお申し出ください。

教場昇格のご挨拶

鎌ヶ谷教場長 萩 裕風

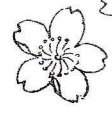
この度、四月一日付けで千代田岳精会十番目の教場に昇格することを認許して頂きました。分室開設以来三年間、飯田先生をはじめ磯田、岩崎、耳塚先生及び幹部諸先生方のご指導とご支援、更に経済的援助の賜物と存じます。分室開設を勧められて二年半余りは、人口十萬の小都市に三十余の詩吟教室が競っている状況に、躊躇していましたが、太田緑山、植村太山両氏の賛同を得て、漸く開設に踏み切りました。市施設利用のためカルチャー方式で『岳精流詩吟の会かまがや』として月二回、会費千五百円で会募集を始め、ポスターとちらしを地元の知人の店に張らせて貰い紹介や推薦をお願いしました。養老院訪問や町内の敬老会や新年会、NPOボランティア団体の会出場などPRに励み、延べ十五名の入会があり、うち四名が正規会員となりました。東陽町はじめ近隣在住の吟友諸氏のご支援、特に清水教場の武藤・西山ご両人の開設以来の教室や行事の参加には唯々感謝です。

当初目標の正会員十名が、現在七名と残念ですが、早急に二桁の陣容に乗るべく会員はもとより地元支援者の皆様とともに頑張る所存です。また指導力強化と後継者育成や教科内容の充実

も欠かせないものとして研鑽に励み、一日も早く東陽町からの親離れを果たすべく努力いたします。

本日を機として皆様の倍旧のご指導とご支援をお願いいたします。

鈴木会長指導本部員に



三月十六日開催された全国研修会で平成廿年新任の総本部役員の任命書が宗家から一人ひとりに渡された。

千代田からは、鈴木会長が指導本部員に任命されたほか、次の方々が各部署員となりました。

審査管理部 副部長 酒井 帆山 (新宿)

研修学術部 副部長 前田 達山 (ハザマ)

事業部 部長 野沢 柳山 (丸二)

現在、指導本部員五名、各部署員八名が活動しています。

全国吟剣詩舞道大会に今年も挑戦

第四一回大会は、十一月九日武道館で開催されるが、毎年女子に上位を占められ苦杯を喫している岳精流本部男子が捲土重来を期して出場と決まり、千代田から廿名が指名された。

今年こそ優勝を目指して五月十三日から本部で十一回の特訓が予定されている。

吟題「社友小集」 福沢諭吉、三本。

漢詩 (十二)

丸の内第二 八田 玉山

鹿 柴 王 維

空山不見人 但聞人語響
返景入深林 復照青苔上

竹里館 王 維

獨坐幽篁裏 彈琴復長嘯
深林人不知 明月來相照

陶淵明の流れを継承した田園派の第一人者は、五言詩を得意とし、自然を一幅の山水画のように詠じた。七四〇年頃藍田県の宋之問の別荘を手に入れ、安祿山の乱が興るまで十四、五年半官半隱の生活を送る。ここで「惺川集」と言われる五言絶句二〇作を若き友（隠し子説もある）裴迪と唱和している。その代表作二詩。彼は南宋画の開祖と言われているが、この二詩は、静寂な風景が眼前にうかぶ心に沁みこむような詩といえる。

「語釈」鹿柴Ⅱ鹿の侵入を防ぐための垣、返景Ⅱ夕日の照り返し。幽篁Ⅱ静かな竹林、長嘯Ⅱ独特の音を出す深呼吸。

「解釈」鹿柴Ⅱ人影のない山中、どこからか人の声が微かに聞こえてくるという静寂、夕日の陽射しが林の奥まで射しこんで、苔の上を照らしている。竹里館Ⅱ閑静な竹林のなかで独り琴を

弾き、深呼吸の音を殷々と辺りに鳴り響かせる。誰も知る人はなく、明月だけが相手をしてくれる。

夏目漱石は「草枕」に「ただ二〇字のうちに優に別乾坤（別天地）を建立している」とコメントしている。

「余談」王維作「酌酒與裴迪」という七言律詩があります。惺川荘で影に添うごとく詩を詠じあった若い友に人生の先輩が励ましている趣があり、于武陵の「勸酒」と並ぶ酒による人生の機微を詠じた詩です。



◇丸の内第二教場
川口 榮三氏（四月入会）

半年前入会の竹馬の友、永長隆徳氏の熱心な勧めで、森田準之助さんと一緒に入会となりました。漢詩に造詣が深いうえ、詩吟も知識があり、基本十分の方で親友との合吟でも全く引けをとらない吟力をお持ちで、入会以来熱心に出席されています。

森田 準之助氏（四月入会）

永長隆徳氏の高校以来六十年の親友、永長氏、川口氏と薩摩隼人3人組です。俳句が趣味の方で、詩吟は初挑戦ですが、堂々としたスケールの大きな吟で、その風格と意欲ある参加姿勢には敬服しており、今後の大成が期待されています。

◇東陽町教場
田村 菊代さん（一月入会）

学生時代から漢詩に魅せられ、声を出して詠じてみたい気持ちをごどこかに持ち続けていました。荒井さん子さんから丁寧なお勧めを受けて、教室を見学。皆さんが親切に迎えて下さり、入会させて頂きました。詩歌研修会にも参加させて頂いており、昇伝審査は緊張しましたが、声も出せはりました。どうぞ宜しくお願いします。

赤坂 美代さん（二月入会）

現在ダンス教室を経営。競技ダンスに携わって三〇年、ずっと出場してききましたが、もう勝てそうにないと断念しました。歌に方向転換して、詩吟と出会った。この度昇伝審査を受けさせて頂きました。この二か月審査のことだけに集中出来て本当に幸せな毎日でした。やはり何かに挑戦することが生き甲斐なのです。これから仲間として指導の程宜しくお願いいたします。

◇神田教場
宮川 武郎氏（十一月入会）

昨年六月、四十五年の会社生活に終止符を打ち、第二の人生の過ごし

方を思案中、小学校の同級生美濃の則武さんから林龍吾先生を紹介され、その吟と人柄に魅せられ、教場の雰囲気の良いさに迷うことなく入会しました。毎週月曜日市川から新宿へ通うことで生活にリズムが生じ、心身高揚、充実した毎日を過ごしています。ご指導宜しくお願いいたします。

◇神田教場志茂吟詠クラブ
稲垣 寿子さん(十二月入会)

ふとした縁で、地域に新しく出来た教室で学ぶことになりました。詩吟とは特別の方のものと思い込みがあり、出来るかな?とためらいましたが、新しいことを始める最後のチャンスかもと入会を決心しました。まだ何も判りませんが、詩の心を学び、吟ずることでゆったりと心が落ち着き、またお腹から声を出すことで健康にも大変よく、心と身体両方に良い影響を与えてくれるものと感じます。永い間探し求めていた何かに、やっと出会えた様な気持ちになりました。

◇ハザマ教場
小寺 修二氏(三月入会)

功刀副教場長の熱心な勧誘にほだされて新たな挑戦を決意しました。全くの初心者ですので宜しくお願い致します。ここ十年京大学生時代のOBとポート(エイト)を漕いでおり、週一の鶴見での乗艇、年8回程の国内レース、また毎年開催の世界マスターズへの参加(今年はリトアニア)。それと二五〇坪の畑、多忙なこの頃です。

滝沢はるさん(四月入会・女性第一号)
剣舞の金子千峰先生の弟子で友人の丸山さんのお誘いで教場を見学、私には無理と思ったのが第一印象です。しかし皆様の元氣な声をお聞きして、健康にも良さそうと思い詩吟を始めました。宜しくお願ひ申し上げます。

◇丸の内女子教場
堀越 啓子さん(四月入会)

明治安田生命の現職です。顧客である教場長宅を寒い日に来訪され、OBである心安さから会話が弾み、仕事も順調に成立、会社の同好会でもある詩吟をお勧めしたところ、快く入会して頂きました。静かな心優しい方でこれからが楽しみです。

◇新宿教場
清水 久明氏(十一月入会)

現役時代から、吉田曉泉さんに勧めらるるも、子供の頃から有名な音痴ゆえ、自信がなく断わり続ける。「一度見学後判断を」に重い腰を上げ教場を見学す。その活気と暖かさを感じ入会を決断。元気で健康な声を維持し、健康のバロメーターでもある声を吟詠で磨きたいもの。

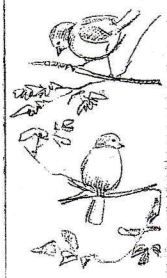
中野ときえさん(二月入会)

小柴ふじ子さんの紹介で入会いたしました。深く考えもせず、ただ大きな声をお腹から出してみたい。知らないことを習ってみたいと思いました。なかなか出来ず苦戦の日々ですが、教場の皆様の暖かさで楽しく習っております。長く続けていきたいなと思っています。

◆井手 竹山氏(清水)

一月十二日ご逝去されました。享年八〇歳。ご冥福をお祈りいたします。

◆梅宮 康彦氏(丸ノ内第一・休会)
一月廿六日ご逝去されました。享年八一歳。ご冥福をお祈りいたします。



アメリカのサブプライム問題に端を発した世界的景気の低迷は、産油国の生産制限、投機筋の思惑と絡みあい物価の大幅上昇を招いた。一方、以前から問題視されていた食料の自給率が四割を切り、中国産輸入品の危険性など、日々の生活に重くのしかかってきた。この庶民の悲鳴に政府は無関心、無策にみえて仕方がない。

次元の違う権力闘争を、永田町で続けていると、気が付いたら国力が衰退して、子孫に禍根を残すことになる。温暖化、食料不足、省エネ、私達一人ひとりと、気づいたことから取組むことで政治の足らざるを補い。大袈裟に言う地球、人類を守ればと思う。本号にも、沢山の寄稿を頂いた。一文字、一行にその方の信念、人生哲学が込められており、楽しく編集者冥利に尽きる。(八田)